

プールガーデンの廃止に伴うテニスコート場及び防災拠点の整備について

1 施設概要

- (1) 開 設 昭和 59 年 7 月 1 日（総工費 22.4 億円）
- (2) 施設内容 大・中・小プール、流れるプール、スライダープール、
テニスコート（7 面）
- (3) プール利用者数 H24 154,833 人（H23 136,624 人）

2 プール営業休止の経過

平成 24 年 9 月、プールサイドに 2 か所の陥没箇所が見つかったため、平成 25 年 3 月にプールサイド全面の空洞調査を実施した。調査の結果、プールサイド床版下に 10 数か所の空洞反応が確認された。開設から約 29 年が経過して施設全体の老朽化が著しく、利用者の安全を確保するための改修工事が必要なため、今年度のプール営業は休止に至った。

3 施設の廃止の理由

平成 21 年に行ったプールガーデン劣化度調査で、緊急補修箇所としてプール底塗装改修工事やプール配管架台改修工事の必要性が指摘されていたが、多大な経費がかかることから維持補修工事は行いながらも抜本的な対策は先送りにしてきた。今回、プールサイドに陥没箇所が見つかり、施設の安全性の確保を考えれば、もはや当面の対策ではなく抜本的な対策を実施しなければならない状況となった。指摘されていた緊急補修工事費は約 1.3 億円であり、さらに今後も 30 年間にわたり施設を維持するためには、30 年の平均で毎年約 1.1 億円の修繕工事費が必要であることが調査結果からわかっている。仮に新しくプールを建設するとしたら、開設当初の総工費が約 22.4 億円であったことから、膨大な金額になることが想定される。現下の厳しい財政状況の中で、これらの費用を負担していくことは困難であり、今後も地盤沈下がプール施設に影響を及ぼすことも否定できないことなどを総合的に勘案した。

4 施設の跡地利用について

- (1) プールガーデンが建つ敷地は都市公園内にあるため、用途地域による建築物の用途の制限に加え、都市公園法で定められた公園施設以外の施設を設置することはできない。
- (2) プール施設を建設し直すことについては、趣味や娯楽が多様化している現在、自治体がレジャープールを整備する意義が少ないうえ、プール施設の設置と維持に多額の費用が必要となるため財政的にも困難である。
- (3) 現在、プールガーデンにはテニスコートが 7 面あり、子どもから熟年者まで幅広い年代に利用されている。プールガーデン以外でも、例えば谷河内テニスコートは土日が 98%以上、平日を含めた年間でも 90%を超える利用率があり、テニスコートに対する需要は高い。
- (4) また、葛西南部地域は震災に伴う大規模災害時の避難場所及び水災害時の避難拠点となっているが、防災施設の整備が十分とは言えないため、防災機能を持たせて区民の安全に備えたい。幸い管理棟は耐震性が高いため、備蓄倉庫として活用し、小松川防災拠点と並ぶ葛西地区の防災拠点としたい。さらに、大規模災害時には南部地域の①避難者支援拠点、②支援物資受け入れ拠点、③ライフライン復旧活動拠点としての機能が期待できる。
- (5) 以上のことから、プールエリアはテニスコートを拡充して整備するとともに管理棟は防災倉庫として活用したい。そして大規模災害時には施設全体を葛西南部地域の避難者支援拠点として機能させたい。

<担 当>

危機管理室防災危機管理課 03 - 5662 - 2129

文化共育部スポーツ振興課 03 - 5662 - 0664